

復興建築

第一線に立つ新人

木田保造氏

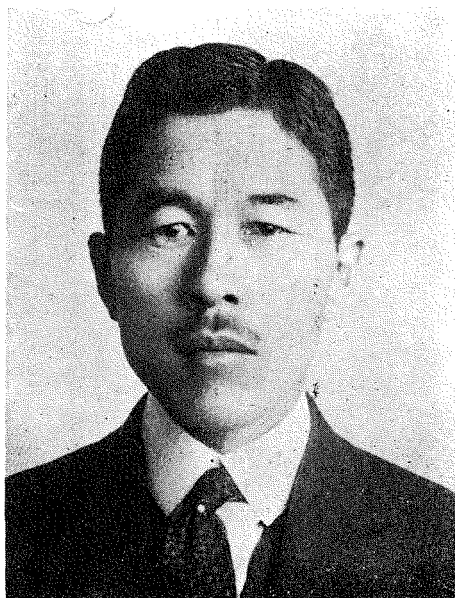
我が國內で殿堂建築に鐵筋コンクリートを用ひたのは明治四十五年北海道函館に在る東

本願寺別院の大伽藍をもつて嚆矢とする。今では北門の一名物となつて、不燃質殿堂建築界の誇をなして居るが其當時に於ては寧ろ無謀に近きものとして、素人は勿論専門家も其大伽藍の成功を危ぶんだのである、處が三ヶ年の日子も多大の犠牲を拂つて、大正五年に立派に完成を告げたのである。而して此の難工事を自ら進んで引受けたのが木田保造氏である。當時氏は年齒僅かに二十七歳の若年であつたのだ。爾來氏は我國不燃質殿堂建築の創始者として將亦東洋

一をもつて誇る銀座ビルディングの設工者として斯界に重きをなし、建築界不況の今日本店を自己の手になれる銀座ビルディング「松屋呉服店」七階に、支店を函館、札幌に置き朝野の信望厚く多數の工事を請負ひ目覺しい活躍をしてゐる。氏は明治十八年一月千葉縣大貫町の舊家に生れ、明治三十九年工手學校を卒へるや直ちに大藏省建築部に入り、其後僅かにして退職して自ら開業なし、大に幾多の工事を完成したが、大正八年に至り、斯道研究のため歐米に遊ぶ事二年にして歸朝し、直ちに其蘊蓄を傾けて銀座ビルディング即ち現在の

松屋呉服店の工事を完成した。實に銀座ビルディングは震災後復興の第一建築物として、又

銀座を飾る美觀として將又内地人の手になる建築物として人々の注意を惹いたのみならず、其出來榮えに於て正に内外に誇るに足るべきもので、以つて如何に氏の手腕の非凡なるかを知るのである。元來氏は極めて温厚で世の請負業者に見る粗暴なく好個紳士の典型である。従つて家庭は頗る圓滿にして而も六人の子福者である。氏は一面又依氣に富み、ために四十六歳の今日迄に學生を養ひ學業を了へしめ今日相當の地位にあるもの二十人、現在にても氏のために



銀座ビルディング設計施工者
木田保造氏
Designer of Ginza Building
Mr. Yasuzo Kida

學業を勵みつゝある者が七人もある。歳尙壯にして能く之等後進者の指導訓育をなし、人材養成に努むるは實に現代稀なる美談である氏は頭腦明晰にして事物の中心、要領を捕捉するに敏で、従つて事に處して果斷裁決流るゝ如しだ、又時勢を見るの明あり、現時事業界漸く多事ならんことを今日、舊來の陋習を固守しては到底機運に乗すべからざるを案じ今や大飛躍の準備に怠り無い、最新の知識を有し且つ精勵なる氏の事であるから氏の將來は確かに刮目に値するであらう。